



生活・ものづくりの学びNetニュース

第3号
2012年2月発行

1

ご挨拶 2011年9月に行われた総会で、鶴田先生の後を受けて世話人代表となりました大竹です。3月11日の東日本大震災は、エネルギーのあり方、衣食住の消費のし方、子どもや高齢者といった弱者を包み込む人間関係や地域コミュニティの重要性、生活基盤を支える生産（ものづくり）と消費（生活）の統合などをふまえて、私たちの生活スタイルを見直す契機となりました。改めて生活の学びが重要になっています。そのためにも会の活動が活発になり、全国の皆さんに生活やものづくりの学びの重要性を認知してもらう必要があります。私たち一人々々が少しずつ力を出し合い、多くの方々が集まることで大きな力に、大きな活動に広げ、学びの充実をめざしましょう。

世話人代表 大竹 美登利

第2回総会および学習交流会の報告

2011年度総会および学習交流会は、9月25日（日）に聖心女子大学（東京）で開催された。参加者は53名だった。

1. 今年度の活動報告

1) 会員数

9月末現在、個人568名、団体32で、昨年設立時の約1.6倍に増加した。

2) 相談及びロビー活動報告

昨年度の総会以降、衆・参議院議員、文科省教科調査官、全日本中学校技術・家庭科研究会関係者等11件の訪問をし、技術科・家庭科の重要性と時間数不足をアピールしたり、逆に活動について貴重なアドバイスを受けたりした。（2011年6月ニュース2号の訪問先と会見概要を参照。）

3) 実行委員会開催

日本家庭科教育学会を中心にネットワークの実行委員を約40名おいており、以下の活動をすることが確認された。

- ①本会の活動をキャッチコピーなどで普及する。
- ②地域の人を巻き込んだ技術科・家庭科の授業実践や熟議を企画する。
- ③中教審委員などへのロビー活動をする。
- ④各県には実践を企画・推進するエンパワメント責任者をおき、その組織化を行う。実行委員希望者の申し出を随時、募っている。

4) 東日本大震災被災地への募金

6～9月までに集まった寄付金は被災地へ送ることとなった。

5) 会員の交流活動と広報活動

①ニュース1,2号発行 ②宣伝パンフ・ビジュアル版を作成中 ③メーリングリストを作成中 ④ホームページを更新管理

6) その他

- ①3月26日予定の学習交流会は大震災のため中止した。
- ②世話人会、世話人代表者会議を開催した。

2. 2010年度決算報告（別紙）

2010年度決算について了承された。会計監査は流田直氏、藤木勝氏。

3. 審議事項

1) ネットワークの会則

会の名称は「生活やものづくりの学びネットワーク」と改称することに決定。会則案を審議、次期総会で成案を図る。

2) 2011年度活動方針

- ①生活やものづくりに必要な学びの意義について広く討論をすすめる。
- ②生活やものづくりのための授業実践を充実させ、交流する。
- ③啓発・宣伝および会員の拡大をする。
- ④会員相互の交流を活発に行う。
- ⑤ロビー活動を行う。

3) 2011 年度予算 (別紙)

2011 年度予算について了承された。

4) 2011 年度運営体制

世話人：大竹美登利 (代表) 河野公子 (副代表) 沼口 博 (副代表) 天野晴子 安東茂樹 猪又美栄子 斉藤弘子 山下いづみ (以上 8 名)

【学習交流会報告】

ワークショップ

◆「簡単にできる

自分流食べ物一簡
単な副菜とおやつ」



横浜国立大学名

誉教授 渋川祥子氏

電子レンジ加熱の特徴と、それを応用した調理法の講義に加えて、ご飯せんべいのようなおやつや、蒸し野菜とさまざまなドレッシングなどの副菜の作り方について実演をされ、味見をしながら質問をする楽しいワークだった。

◆「ペットボトルでできる生物育成」

荒川区立尾久八幡中学校教諭

内田康彦氏

栽培についての講義の後、ペットボトルから鉢を作り、タテ型にはサントウ、ヨコ型にはハーブの種子をまいて、各自、持ち帰って育てるという実習が好評であった。



種子のまき方を教わる

【講演】

「これからの農業と私たちの生活」

茨城大学農学部教授 中島紀一氏

日本の食糧自給率の現状と問題から、これからの社会は、グローバル化 vs 地域化、経済 vs 環境の座標軸のどの辺に向かって進むのかを考えなければならない。学校給食法の目的でも食料の生産・流通・消費について理解させるとある。また、原発技術への理解と批判について、中沢新一「日本の大転換」(集英社新書)を引用して生態圏における生態系と原子炉の齟齬を指摘された。

(文責 渡邊彩子)

活動報告

■全国小学校家庭科教育研究会

平成 23 年 10 月 28 日 (金) に行われた第 48 回全国大会高知大会では、いの町立川内小学校・いの町立伊野南小学校を会場に公開授業及び分科会が行われました。また、県民文化ホールにて行われた地区研究発表及び協議においては、内容 A・B・C・D それぞれの実践研究が報告されました。私は、東京都代表として発表させていただきましたが、内容に踏み込んだ活発な協議が印象に残りました。

全国小学校家庭科教育研究会の全国大会は、平成 24 年 11 月 8~9 日に佐賀大会、平成 25 年 11 月 1 日に東京大会と続きます。今後も、全国から教員が集い学び合う機会を大切にしたいと思っています。

(東三鷹学園三鷹市立北野小学校 富永弥生)

■全日中技家研への対応

日本産業技術教育学会では、我が国の技術教育の推進とその大切さを伝えるため、現場の中学校の技術科教育の先生方と共に、教育内容を普及させる研究や実践を行っています。

活動として、新しい情報の詰まった学会誌を発行し、中学校の先生方にとっても興味や

関心のある内容や明日の授業に役立つヒントなど、欲しい情報を満載しています。また、全国大会などの研究発表会等で中学校の先生方との交流を持っています。

本学会は、これまで全日本中学校技術・家庭科研究会の共催を受け、小・中・高校生対象の「エネルギー利用」技術作品コンテストを開催しています。学会主催の重要な業務として位置づけているこのコンテストに、中学生の応募が毎回 500～600 作品ほどあります。優秀な作品には、省庁や他学会及び諸団体から各賞を授与していただいています。「全日中会長賞」もその一つです。

一方、全日本中学校技術・家庭科研究会主催の「全国中学生 創造ものづくり教育フェア」に協賛し、その運営や審査に協力体制を組んでいます。特に「創造アイデアロボットコンテスト」、「めざせ！「木工の技」チャンピオン」、「生徒作品コンクール」等の審査や運営なども学会の持てる人材を派遣しています。そして、各コンテスト等において、「日本産業技術教育学会会長賞」を授与しています。

今後も、技術教育の普及発展に寄与するため、互いの協力体制を図りながら善き連携関係を持続していきたいと考えています。

(日本産業技術教育学会会長、京都教育大学 安東茂樹)

《よびかけ》

◆ロビー活動にぜひご参加ください

記憶に新しい方も多いかと思いますが、家庭科男女共学実現の背景にロビー活動は大きな役割を果たしました。

1973 年からの高校「家庭一般」女子のみ 4 単位必修カリキュラムをきっかけに、家庭科男女共学実現に向け、取り組みが広がって行きます。特徴的だったのは「性別カリキュラムはおかしい」「男子を生活の学びから阻害してよいのか」といった学校現場からの声が、学習指導要領には記載されていない中学校の

技術・家庭科および高校の「家庭一般」の男女共学実践を生み出したことです。全国各地の実践はマスメディアで紹介され、男女共学家庭科を実践していない人たちにも共有されていきました。

一方、市民団体「家庭科の男女共修をすすめる会」は現場での実践をバックに、中教審委員や国会議員等へのロビー活動に力を入れました。その取り組みの中で 1981 年に日本弁護士連合会は 41 頁にわたる『高等学校家庭科の女子のみ必修』についての意見書を出しました。そこに盛り込まれたのは「1. 高等学校における家庭科を女子のみに必修とすることを速やかに廃止すること 2. 家庭科の教科内容および学習方法を『家庭生活についての総合的理解を深め、民主的な家庭の建設と運営に必要な基礎能力を養うとともに、学習を通じて個人の尊厳と人間平等の感覚を体得させる』との視点から検討し、男女に必修かつ共修とする」で 1985 年の教課審答申に影響を与えました。

現在、中教審委員や国会議員へのロビー活動が取り組まれ、日弁連の両性の平等委員会に対しても企画中です。ご参加ください。

(文責 齋藤弘子)

◆会員拡大の取り組みを

第 2 回の総会以降、都小家研会長の貝ノ瀬ひろ子先生や、元東京と中央区立日本橋中学校の塩入睦夫先生など、小・中学校の児童・生徒の様子や教育現場の実情、特に、家庭科、技術科に詳しい先生方に本ネットワークの呼びかけ人になっていただきました。それに意を受けて、第 2 回総会后、全国各地で開催された全中技家研、全小家研では、実行委員の先生方の協力を得て、九州・近畿・中国地区等多数の地区で参加案内のリーフレットを配布し、若干の会員増がありました。

しかし、このところ、会員はあまり増えていません。現在、活動が「地域と連携した授

業づくり」の模索にウエイトがあるからかもしれないませんが、常時、会員が増えていくことは、ネットワークの活性化に不可欠です。

今後は、リーフレットを配布して会員になってもらうだけでなく、周囲の人や、様々な学習会や研修会等で、その意義を一人一人に話しながら会員になってもらう取り組みが必要だと思います。また、家庭科関係者だけで

なく、他教科の関係者や、女性団体の方々、大学生、卒業生、生活とものづくりに関係があると思われる人たちなどにも、積極的に広く働きかけていくようにしませんか。

それには、常時、参加案内のリーフレットを持参していることが大切なようです。

(文責 鶴田敦子)

学習交流会（3月）のご案内

下記のように学習交流会を開催致します。

原発関係の講演と、原発事故を教育現場でどのようにとりあげるのか生徒の方にも参加いただき、一緒に討論をしたいと考えております。

年度末のお忙しい時期かと存じますが、是非ご予約下さい（事前申し込みは不要です）。

テーマ：原発事故をどう受け止め、学びの場につなげるのか

日時： 2012年3月31日（土）13:00～16:30（時間は予定）

場所： 聖心女子大学（東京都渋谷区広尾4-3-1、東京メトロ日比谷線「広尾駅」2番出口、徒歩3分）

内容： 講演 東京都市大学 青山貞一氏
授業実践の紹介と生徒を交えた討論

参加費： 無料

*詳細は、同封のチラシをご覧ください。

(学習交流会担当 天野晴子、沼口博)

東日本大震災への寄付金について

寄付金は10月25日までに371,292円集まり、ミシンなど裁縫用具の購入資金として、宮城県登米市のえがおネットを通じて被災地の方々に送金しました。

多くの方のご協力ありがとうございました。



事務局からのお知らせ

メール登録した方で、メールが送信されない方は、事務局のメールアドレスにご連絡ください。登録したメールのアドレスを確認させていただきます。

なお、メール配信には、freemlのサービスを利用しています。

発行者 生活やものづくりの学びネットワーク 事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚4-39-11 仲町YTビル3F 日本家庭科教育学会事務局気付

メールアドレス：seikatsu_nt@yahoo.co.jp FAX：03-3902-1668

ホームページ：http://www.geocities.jp/seikatsu_monozukuri_nt/